

■日大からの調査報告書について

日大からの調査報告が先週開示されました。事実関係を知るために調査したいとして、日大が独自に設置した「調査委員会」が調査したものです。9月、調査に際し持っていた資料はすべて提出し、本人も聴取に応じ、問題解決のためと思い最大限協力しました。

しかし、調査委員会が調査報告書を作成して日大に渡してから1か月を経て、ようやく日大から開示された調査報告は、私たちの予想とは大きくかけ離れたものでした。

調査報告書そのものではなく、要約版の一部のみで、その中にもマスキングがされていました。また、肝心の監督のパワハラ問題や、日大側の対応が適切だったかどうかについての部分は全く開示されませんでした。代理人を通じて、日大側に調査報告書の残りの部分の開示を求めていただきましたが、日大側の代理人の回答は、これ以上の開示に応じる予定はないというものでした。

事実関係を知りたいという思いから、調査委員会の調査に協力してきたにもかかわらず、このような状態では話し合うこともできません。

日大からは、これまで本人に対する謝罪やお見舞いの言葉をいただいております。むしろ、本件の解決のめどが立たず復学も困難なため猶予を求めていた学費についても、その納入がなされなければ除籍とする旨の連絡書面が一方向的に送られてきました。日大の配慮のない対応が続いていることには本当に残念に感じております。

そこで、今一度事実関係を整理し、今後の日大の誠意ある対応を求めたいと考えて、この度皆様にご報告をすることを決めました。解決すべき問題と本人が罹患してしまった病気の関係性が強いことから、現在の病気についても明らかにします。

■発病に至る経緯について

2月上旬に突然始まった監督のパワハラ行為とそれに追随したいじめ行為により、本人は適応障害となりました。

「大雪の日に大学職員に頼んで練習を無くそうとした」という事実無根のこと以外にも、「雪で練習がなくなると大声で叫んで喜んだ」、「応援リーダー部の評判を下げる行為をした」との叱責や非難を受けたことと、本人が認識していた状況には差がありました。監督は学部内のある人物から「騒いでいたぞ」、「恥ずかしいぞ」などと1月末に注意を受けたとして、本人を2月1日から叱責し始めています。

そこに誤解があるならそれを解くことで問題を解決したいと考え、監督に注意をした人物について3月中に再三尋ねましたが教えてもらえなかった経緯があります。

人権オフィスの勧告により、監督が本人に直接謝罪するとして7月2日に体育館で面談をした際にも、再度この人物について尋ねましたが、「相手に迷惑がかかる」と言って監督は答えようとしませんでした。解決する気のない、形だけの謝罪だと感じました。本人は絶望し、競技と決別することを決意して、その場で監督に退部の意思を伝えました。部員らに対して退部の挨拶だけは直接したいが、誤解がある現状ではできないとして、最後の願いとして部員らの誤解を解く説明をするよう監督に依頼しました。

監督は7月13日の練習時に説明すると言い、7月9日までに説明内容を事前に知らせてくれると約束しました。

このとき本人は、「見るのが辛くて大学のチームのものは捨てた、高校のものは宝物として取っておきたかったけれど、監督に母校の恥だと言われて、自分にはそれを思い出す資格もないので忘れるべきだと思って処分した」と競技やその思い出との決別を述べていました。しかしこれに対して監督は、「チアのもの全部捨てたって言ったけど、4月の私の結婚式で演技のお礼に部員たちに渡したチームのナップザックが、あなたの分も名入れて作ってあるから受け取って」と、無神経な返答でした。本人は、監督と自分との間では今回の件に対する認識や覚悟あまりに大きな差があることを思い知ったようで、さらに深く絶望して泣いていました。

約束の7月9日になっても監督からは説明内容の文書は送られて来ず、その旨の連絡もなかったため、本人は「本当に退部させてもらえるのかな」、「ちゃんと説明してくれるのかな」と不安を口にして落ち込んでいました。

そして7月10日、起床した時には何もわからなくなっていました。

■病状について

検査と診察の結果、解離性健忘と診断されました。小学6年生の冬ごろで記憶が途絶えていました。部活でチアリーディングがしたいと選んだ中学を受験する手前から前日までの期間の、出来事や人について記憶は何ひとつ思い出せませんでした。

現在もその症状は改善されていません。記憶はないものの、競技や関連する人物に繋がるものに接すると頭痛や吐き気に襲われたり、不意のフラッシュバックで動悸や発汗が起こったりします。罹患した病は耐えきれないストレスがかかったことに対する防衛反応として起こる病気であり、原因が解決して安心できる環境になった時に自然と記憶の蓋が開いて記憶が戻る可能性があるという説明を医師から受けたので、できるだけ

早く問題を解決したいので協力してほしい旨を医師の診断書を提示して、監督と部長を通じて日大に伝えました。

なお、8月9日と14日に報道各社に示した書面では、本人の体調がすぐれない状況が続いている、健康状態が悪いといった説明にとどめて、詳細な健康状態の公表は差し控えておりました。症状を伏せていた理由は、症状の性質上、詐病といういわれのない誹謗を受けることで本人にさらに二次被害が起きることを避けたいという思いと、迅速な解決が出来た場合には症状も回復する可能性が高いと医師から説明を受けましたので、まずは迅速な解決を日大側に期待したということでした。

しかしながら、日大側の対応は鈍く、調査委員会による調査結果が出たことや、本人の症状を伝えているにもかかわらず、現在に至るまでの日大の対応があまりにも私たちへの配慮を欠いたものであるということ、皆様にお伝えしたいと思うに至りました。

■日大の対応と8月の報道の理由について

その後解決に向けた連絡も、体調を心配する連絡もありませんでした。こちらから監督に何度もメールを送り、「雪の日に騒いでいた」と監督に注意を伝えた人物の名前を、ようやく教えてもらうことができました。学部の幹部職員でした。

7月末にその職員さんと面談しました。職員さんは本人について顔や名前などの個人認識をしていませんでした。大雪の日に学年性別部活の種類を問わず建物の出入り口付近で、「雪だ!」「オフだ!」などとはしゃぐ学生を多数見かけたそうです。

その中に応援リーダー部のウィンドブレーカーを着用している学生が複数人いた記憶があったので、雪の日から8日後の祝勝会で監督と立ち話をした際に「雪の日に騒いでいたぞ」、「応援リーダー部として恥ずかしいぞ」と話したと教えてくれました。

お話の通りなら、「雪でオフになったからと叫んだ」、「部の評判を下げた」として監督が本人を名指して叱責したり、その後に部員らから反省を求められても対応できなかったことも当然かと思えます。こんな単純な誤解なら尚更、早い段階でこの職員さんとお話ができている監督が誤りを認めてくれていれば今も学生生活を送っていたら、少なくとも記憶をなくすほど苦しむことは絶対になかったらと思うとやりきれない思っています。

日大からなんの対応もされない状態の8月3日、日大は別の運動部の問題に関連して、「学生ファースト」、「今後の改革」などのアナウンスが出されましたが、対応が変わることはありませんでした。

まずは本人を病気から回復させるために問題解決に向き合ってもらいたいという思いから、8月9日に発表に踏み切ったという経緯があります。本人には当時の記憶が全くありませんでしたが、記憶がなくなるまでの間に詳細な資料を作成していましたので、それを基に当時の思いをお伝えしました。

なお、報道後の9月下旬に一度本人が応援リーダー部の練習場を訪問したことがあります。報道した理由と目的、病気から回復するために問題を解決する必要があることを伝えるためでした。病気は特殊なので直接自分の口から自分の状態を見てもらって伝えたいという本人の判断からの行動でした。

また、調査委員会の聴き取りに対する協力を直接お願いしたいという思いや、無関係の下級生にはお詫びの気持ちを伝えたいという思いもありました。ちょうど、「会いに来るならこの日に」と、全部員が揃う日時と場所について具体的な連絡をくれた部員がいたので、その指示に従って会いに行きました。

しかし、普段はいない保体審の職員が2名そこにて、その職員から、「学生が怖がってるから帰って」などと言われ、練習場への入室を断られました。5分程度の説明だけしたらすぐ帰ると伝えましたが、結局追い返されました。原稿まで用意して頭痛を我慢して体育館に行きましたが、無駄でした。このときの面談が実現し、誤解について説明することができていればと、残念な思いです。

その後の対応は冒頭に述べたとおりです。

■今後について

もっと早く、日大がきちんと対応をしていていけば、解離性健忘に罹患することもなかっただろうし、罹患後も早期に病状が回復しただろうという思いが拭い切れません。

私たちは、調査委員会の調査により真実が明らかになることが、病状の回復に必要な不可欠と考えて、そのため調査委員会による調査には誠実に協力してきました。

それにもかかわらず、調査報告書(要約版)の一部のみしか開示をしないという日大の対応は、私たちの病状回復への思いをないがしろにするものと言わざるを得ません。日大の対応には、とても大きな失望と憤りを感じており、納得できるものではありません。早く解決することが、本人の病状の回復にとって必要不可欠ですので、今度こそは、日大には真摯に対応していただきたいと願っています。

以上